

英語ライティングの Peer Review

—アクティブ・ラーニングの一形態として—

外国語（英語）科 加古久光

本研究では、3年生の英語表現Ⅱを対象としており、他の生徒が書いたパラグラフライティングをグループで添削をする活動から、自分でも起こりうる誤りを気づかせ、教え合うことで知識を定着させることを目的としている。6回の活動から、全体の誤りの総数も減少していき、約半数の生徒がこの活動のために、主体的に家庭学習に取り組んでいたことがわかった。

< キーワード > Peer Review 正確性 知識の定着

1. 経緯と目的

生徒は1年次から継続して、レッスン毎にライティング活動を行ってきた。その指導としては、語数、新出文法の使用、文構成などを評価のポイントとして、とにかく書くこと、自分の意見を伝えることを最優先させ、ミスに細心の注意を払うことはさせてこなかった。また、そのライティングを提出した後も、誤りを指摘するだけで、書き直しなどのフィードバックを特には行わず、教員の誤りの指摘に対して疑問を持った生徒の対応をするぐらいだった。その結果、生徒は英文を書くことに対する抵抗感はなくなっていくものの、同じミスを繰り返し、そして限られた文法しか使わないなど表現方法には大きな成長が見られなかった。

3年次になり、ライティング活動を継続させるにあたって、今までの評価のポイントに加え、課題となっていた正確性を身につけてほしく、それも目標とした。また、高校文法もほとんどが既習事項となり、いかにそれらを定着させるかにも重点を置きたかった。この2点の課題を解決するための手がかりとなったのが、ラーニングピラミッドである。ラーニングピラミッドとは、Edgar Dale(1946)の "Audio-Visual methods in teaching" の中で出てくる考えを元にしたもので、学習定着率はその方法で変わり、「講義を受ける」方法が最も知識の定着率が低いとし、「他の人に教える」方法が最も知識の定着率が高いと言われている。この考えを元にして、Peer Reviewの活動を取り入れることに決めた。この活動では、まず他の生徒が書いたライティングを添削する。それができることによって文法や表現の正確性を身につけることができる。そして、グループとなってその添削した文法や表現を教え合う。この方法で、知識の定着を図っていく。

2. 研究対象と授業計画

研究対象は、高校3年生の1クラス42名で、英語表現Ⅱの授業で取り組んだ。このクラスは国公立大学の進学を希望する生徒が多い文系クラスで、英語を得意としている生徒も多い。学習態度も良く、家庭学習もよく取り組んでいる。

英語表現Ⅱでこの活動を扱う理由としては、1年次からライティングを含めた表現活動をこの科目でよく行ってきたおり、生徒がこのPeer Review活動を行うことに関して抵抗感も少ない。また、英語表現Ⅱの学習指導要領には、「言語活動を効果的に行うために、書いた内容を読み返して推敲す

ることを指導するよう配慮するものとする」(2内容(2)イ)と述べられているので、Peer Review という活動がこの科目に適していることがわかる。これらの点を踏まえ、この活動を効率よく取り組むために、以下のように1単元の授業計画をした。

	学習活動
1 時間目	<ul style="list-style-type: none"> ・ テーマについて、ペアで議論をする。 ・ 数人の生徒が自分の意見をクラス内で発表する。 ・ 自分の意見を書く。(ファーストライティング)
2 時間目	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本文を読み、練習問題を解く ・ 機能表現の単文を暗唱し、練習問題を解く。
3 時間目	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文法説明を聞き、練習問題を解く。
4 時間目	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他生徒のファーストライティングを読み、グループで良い点や修正点を話し合う。 ・ 他生徒が修正したファーストライティングを元に、リライトを行う。 ・ 隣同士のペアでリライトを交換し、主題文と結語を見つける。

1 単元 (レッスン) を 4 時間に分ける。1 時間目に、生徒はその単元のテーマについてペアワークで話し合い、そしてファーストライティングを行う。2、3 時間目には、教科書の本文を読んで練習問題を行うなど教科書に沿った活動を行い、その単元の知識や表現などを身につける。そして、4 時間目に、Peer Review の活動を行い、その後修正されたファーストライティングと 2、3 時間目に学んだ知識や表現を活用してリライトを行う。

英語表現Ⅱの授業は2年次からの継続で、3年次は Lesson 15から始まり、Lesson 20までを行った。計6レッスンに取り組み、以下の内容、テーマでライティング活動を行った。

- 1 Lesson 15 24-hour Society
 “Twenty-four-hour convenience stores are everywhere in Japan. Are they good or bad for Japanese society? Give two reasons to support your opinion.”
- 2 Lesson 16 Universe
 “The exploration of space is a waste of money.”
- 3 Lesson 17 University
 「“Gap year” の制度の是非についてあなたの考えを書きなさい。」
- 4 Lesson 18 Biodiversity
 「生物多様性の危機。あなたはその原因は何だと思えますか。」
- 5 Lesson 19 Art
 “Should art and music be compulsory subjects?”
- 6 Lesson 20 Medical Ethics
 “Can doctors tell a lie to their patients if they need?”

3. 研究方法と分析結果

(1) Peer Review の活動方法

最初に、他の生徒が書いたライティングを自分で読み、文法、語彙選択、表現などの誤りがあるか

を確認する。また、誤りだけを探す粗探しのような活動にはさせたくなかったので、内容や表現の選択などで良いところや、自分では思いつかなかった意見などはそれも明記するようにさせた。その後、3人1組のグループで話し合い、お互いが気付いた誤りや良い点などを伝え合う。この時に、その誤りがなぜ違うのか、この意見がなぜ良いのかなど理由をつけて説明できることが大切であることも伝えた。修正されたライティングは本人に返し、その指摘を自分でさらに吟味し（もちろんそこで指摘されていることが全て正しいわけではないので）、リライトの活動をする。以下は Peer Review によって修正されたファーストライトである。

1 I like Universe. The news ^{about} "The exploration of space" makes me ~~excite~~ ^{excited}. But, first we have to ~~exploration of~~ ^{explore} the Earth. Today, there are many problems ^s in the Earth. For example, "Global Warming", "Food", "Population" and so on. "The exploration of space" needs a huge amount of money. If we can use that money, we should get people's happy life ~~insted~~ ^{instead} of a moon stone. So, I think this opinion is true.
 ← Good!

Lesson16 The exploration of space is a waste of money. について

I would like to take about medical ethics. I think doctors should tell a ~~true~~ ^{truth}. Because if doctors tell a true, their patients can ~~that they want to do anything~~ ^{do what}. And they can decide to their left life ~~plane~~ ^{remaining days}. Also doctors tell a lie but, their patient will aware ~~about serious illnesses~~ ^{of there}. And if doctors tell a lie, they will lose their patient confidence. This is why doctors should tell a true. That's all thank you.
 (Of course) Even if

Lesson20 Can doctors tell a lie to their patients if they need? について

(2) 分析結果

計6回の Peer Review の活動を通して、生徒がどのくらいの正確性と知識の定着を身につけたのかを調べるために、誤りの数で分析をした。ライティングでの誤りが無くなれば、または減っていけば知識の定着のもと正確性を身につけている、身につけてきていると判断できるためだ。今回はターゲットであった文法項目を正しく使用できているかを調べた。また、分析の対象としたのは、単元の1時間目に行ったファーストライトで、第1回は全く Peer Review 活動を経験しておらず、そして、それ以降は回数を重ねていった結果として比較することができた。以下は、その分析をまとめたものである。

表：文法事項の誤りの数

文法項目	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回
複数形	14	13	10	12	9	9
冠詞	8	10	16	9	3	6
前置詞	19	8	6	11	6	3
時制	1	4		1	1	
語彙選択	17	14	11	14	15	13
接続詞	2	1		1		
語順	9	8	9	6	6	8
副詞	1	2	1			
動詞の呼応	10	14	5	9	12	10
比較	2	3	1		2	4
受動態	2	2	1		1	
進行形	2			1		1
代名詞	3	1	1		1	
関係代名詞		3	5	2	1	2
動名詞			1	3	1	
不定詞			1	1		2
分詞		1			1	
関係副詞				1		1
仮定法				2	1	3
総数	90	84	68	73	60	62

ここからもわかるように、第1回から比較すると、文法項目によっては回数を重ねるごとに増減しているものもあるが、全体的に誤りの総数が徐々にではあるが、減ってきたことが分かる。少しずつ知識の定着、そして正確性が身につけてきたと言える。また、回数を増すごとに、新たな文法事項が増えている。これは、生徒が積極的に他の文法事項を使って自分の意見を表現しようとしているのがわかる。

4. 生徒アンケート結果

生徒自身はこの活動を行っていき、どのように感じているのかを調べるためアンケートを行った。5回目の活動を終えた後のアンケート結果である。(生徒感想文は一部抜粋)

- ① Peer Review は学習において効果があると思いますか。
 効果がある 92. 7% 効果がない 7. 3%

- ② ①で「効果がある」と答えた人は、どんなところがそう思いますか。
 ・他人の文章を点検することで、自分が文章を書いたときに自分の文を見直す癖がついたから。
 ・友達に自分の考えを説明することでその文の構造をより理解できる。

- ・似たようなレベルの文を直すことで自分の英文の間違いにも気づきやすくなる気がするから。文が難しすぎず、簡単すぎずでちょうどよいし、ミスの仕方も自分と結構似ているから、次の自分のライティングにもつながると思う。
- ・知識定着には効果があると思う。自分の持っている知識を伝えられる段階に到達すれば、それは知識が定着したといえるからだ。しかし、間違った答えを共有する可能性がなくはない。ある程度、教養がなければ効果は薄いのではないだろうか。
- ・実際に他人が書いた文章を読むのは面白いので、英語の文章を読むことに対する抵抗が少しでも減るといえる点。文章内の間違いを探すためには単語を調べなければいけないし、文章の構成をつかむために文を理解する必要があるから、自然と積極的に英語に触れ合うことができるから。

③ ①で「効果がない」と答えた人は、なぜそう思いますか。

- ・あっているか自信がないから。
- ・効果がないとは言わないが、こと受験生である私たちに関しては、個人での学習時間を大切にしたい。
- ・生徒同士だけだと、ほかにミスしている箇所があっても見落としてしまう場合がある。生徒同士で確認した後に先生にもチェックしてほしい。

④ 今まで（2年生まで）のライティングで、教員に誤りを指摘されて、その次から同じ誤りをしないようにと意識していましたか。

意識していた	63.4%	ときどきしていた	29.3%
あまり意識していなかった	4.9%	意識していなかった	2.4%

⑤ Peer Review で誤りを指摘された後、同じ誤りをしないようにと意識しましたか。

意識していた	63.4%	ときどきしていた	34.1%
あまり意識していなかった	2.4%	意識していなかった	0%

⑥ 家庭学習（受験勉強）で身に付けた知識（単語や文法）が、Peer Review で役立ちましたか。

役に立った	43.9%	時に役に立った	43.9%
あまり役に立たなかった	12.2%	全く役に立たなかった	0%

⑦ Peer Review で自分の意見が言えるようにと、家で学習しようと思いましたか。

思った	14.6%	ときどき思った	39.0%
あまり思わなかった	29.3%	全く思わなかった	17.1%

5. まとめと今後の課題

分析結果や生徒のアンケート結果から見ても、この Peer Review という活動が学習において有効であるということがわかる。そして何より生徒自身がこの活動を楽しみにしていた。アンケート結果にもあったが、生徒たち自身がこの活動を行っていくことで知識が定着していることに実感していたからだ。この活動を取り入れた最初の頃は他の生徒のライティングを添削することに対して抵抗感や不安なども見られたが、回数を重ねることにグループでの話し合いも活発になり、お互いに意見が言えるようになった。また、英語を得意としている生徒が多いことと、受験生でもあるので多くの知識

を定着させたいという思いもこの研究が比較的良い結果をもたらした要因でもある。

ファーストライティングにおいてであるが、第4回からはパソコンで書かせている。これには二つの理由があり、一つはハンドライティングで書かせていた時、筆跡で誰が書いたものなのか特定することができる者もいるので、その情報を与えないようにしたかったのと、もう一つは、将来資格試験の受験やレポート提出等で、パソコンで英文を書くことが必要になってくる。それに備えての練習をさせたかったからである。ただ、Wordの機能により、綴りの誤りを指摘してくれることで、生徒が綴りをより意識するようになったのもいい点であった。

今後の課題としては、今回の研究ではPeer Reviewの活動で修正されたライティングは、そのままそれを書いた生徒に渡した。つまり、各グループが添削した内容はクラス全体で共有をされたわけではない。クラス全体で共有ができれば、自分たちでは思いつかなかった添削や考えなどをさらに得る機会となる。つまり、Peer Reviewの活動にもフィードバックを与えるべきであった。しかし、今回のように、プリントを配って、そして回収してとなると、全体での共有には時間と労力がさらに必要となる。その問題解決として、今後はICTの導入を考えている。グループ一つに1台ずつタブレットを渡し、その中にデータとして、他の生徒のライティングを入れておく。タッチペン等を使って画面上で添削を行い、添削結果をプロジェクターで映し出す。こうすることで、全体での共有もその場で多くの時間を必要とせず行うことができるし、クラス全体に対してのプレゼンという機会も得ることができる。このPeer Reviewの活動を発展させ、さらに効率よく行うことができるだろう。

参考文献

文部科学省「高等学校学習指導要領 外国語編・英語編」(平成21年12月)

Edgar Dale (1946) Audio-Visual methods in teaching NY: Dryden Press 37-52

溝上慎一 2014「アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換」東信堂